

なかむら つね
中村 彝

孤独の天才画家 水戸市



(茨城県近代美術館提供)

明治20年(1887) - 大正13年(1924)。水戸上市寺町〔水戸市金町〕生まれ。幼少年期に父母を失い、その後東京に移り住むが結核にかかる。また、兄姉とも死別するなど天涯孤独となる。18歳の時に療養先で水彩画を描き始め、画家になることを決意。黒田清輝の白馬会、中村不折の太平洋画会の洋画研究所で本格的に油絵を学ぶ。文展に出品したが2度続けて落選、レンブラントの絵画を熱心に研究し、明治42年、3回目に「巖」で入選、翌年「海辺の村」で3等賞。その後も入賞を重ね、大正9年(1920)の「エロシェンコ氏の像」は最高傑作と評判をとる。洋画家としての名声を高める一方、病状は次第に悪化、発熱や咯血が続く中、最後の力を振り絞り「髑髏をもてる自画像」「老母像」を描く。

中村彝は4人の兄姉をもつ5番目の末っ子でしたが、生まれて10か月後に父が、11歳の時には母が亡くなりました。その上、少年時代に兄姉とも死に別れるなど孤独な身の上となってしまう。自らも結核という当時としては恐ろしい病気にかかってしまい、学校をやめなくてはなりません。

(どうして、わたしだけがこんな不幸を背負わされるのだろう。)

さびしさをまぎらわすために絵をかき始め、小さいころから好きだった絵が生きる上の救いとなりました。病気の療養のため千葉県海岸に行き、そこで知り合った友だちに水彩画を教してもらい、画家になろうと決意します。東京に戻り、黒田清輝の白馬会研究所で学び、続いて太平洋画会に移り、中村不折などから洋画の勉強をしました。絵や彫刻の親友たちにも恵まれ、彼らが展覧会をめざして一生懸命勉強している姿に心をうたれ、彝も努力しましたが、当時最高の展覧会であった文部省〔文部科学省〕主催の文展は狭き門で2回続けて落選してしまいました。

(どうしてわたしの絵はだめなんだろう。)

落胆していた彝は、本屋で一冊の本を見つけました。それにはオランダの画家、レンブラントの作品がのっていました。彝はありのままに描かれた風景や光線のあて方を工夫した人物像を見て、体が震えるほど感動します。こうして学んだ方法で3か月かかって描いた「巖」がやっと文展に入選したのです。

自然の持つ偉大さや力強さをレンブラントばりに描く彝の油絵には人の心を打つものがあり、将来有望な画家として評判は高くなりました。

彝は海外の美術の動向にはとりわけ敏感で、自分



「エロシェンコ氏の像」
(東京国立近代美術館蔵)

の芸術げいじゆつに対する考えを書きとめて『芸術の無限感おげんかん』と題する本も後に出版しゅつぱんしたほどです。大正期に入るとフランス印象派いんしょうぱのルノワールという画家の油絵に感動し、明るく生き生きとした表情や姿勢しなたいをもつ一連の「少女」の作品を発表したのです。

名声は一段と高くなりましたが、その反対に病気は重くなっていきました。医者からは、絶対安静ぜったいあんせいにと言われますが、回復かいふくがかなわないことを彗きとは悟っていました。(わたしの体は元もとに戻れない。これも運命なのだろう。それならば命ある限り絵を描き続けよう。)

こうして重荷を背負ったまま、死ぬまで絵を描く決心を固めました。

余命よめいが少ない中で、彗は幸運な出会いに恵まれます。一人は最高傑作さいこうけっさくといわれる「エロシェンコ氏の像ぞう」のモデルとなったロシアの盲目の詩人エロシェンコ。もう一人は、不治の病の彗を最後まで看護し続け「老母像らうぼ」のモデルとなった岡崎キイ。この二人との出会いは、彗の晩年ばんねんの作品にいつそう輝かがやきをもたらすことになりました。

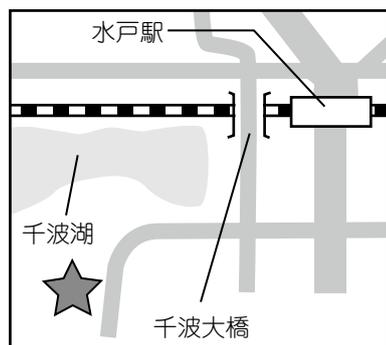
ほかに「カルピスの包み紙のある静物」「髑髏せいぶつを持てる自画像」などのすぐれた作品を残した彗は、大正13年(1924)12月24日の朝、はげしい発作はつさくを起こして息を引き取りました。あまりに突然とつぜんのことで、誰にも看取みとられずに亡くなったといえます。37歳という孤独で短い生涯しょうがいでしたが、その作品は今でもたくさんの人の心をとらえ、「洋画の天才」「孤高ここうの画家」として高く評価ひょうかされています。

ゆがりのスポットに行ってみよう

茨城県近代美術館 (中村彗のアトリエ)

所在地 水戸市千波町東久保 666 - 1

内容 近代美術館構内こうないに中村彗のアトリエが復元ふくげんされており、内部では彗の遺品いひんや資料しりょうが無料展示てんじされています。



おもな
参考文献

『20世紀茨城の群像』(茨城新聞社・1999)

『常陽藝文61号』(常陽藝文センター・1988)